

生 かきお 栢生 かきお 栢生 かきお 栢生 かきお 栢生 かきお 栢生  
 かきお 栢生 かきお 栢生 かきお 栢生 かきお 栢生  
**栢生文化**  
 かきお 栢生 かきお 栢生 かきお 栢生  
 かきお 栢生 かきお 栢生 かきお 栢生  
 生 かきお 栢生 かきお 栢生 かきお 栢生

栢生郷土史料館 情報・研究誌  
 住所：川崎市麻生区上麻生6-40-1栢生中学校内  
 電話：044-988-0004 (栢生中学校)  
<http://www.kakio-kyodo.com>  
 第50号



—— 栢生郷土史料館支援委員会 ——  
 小島 一也 氏 たいへんご苦労さま  
 委員長勇退

宜しくお願ひします 久保倉良三 氏  
 新委員長 就任



栢生史料館の  
 発展を願って

栢生郷土史料館 前支援委員長  
 小島 一也

栢生中学校の新校舎が落成して満二年を迎えようとしています。

振り返ると校舎の全面改築要望から郷土史料館の設立と年齢を顧みず地域の皆様とその実現に努力してまいりましたが、この程、機構が整った支援委員会の総会を期に委員の皆様のご理解を得て、その代表の任を辞させて頂く事になりました。長い間のご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。

栢生という地は、禪寺丸栢に代表される古い歴史と自然、伝統、そして新百合ヶ丘に見る新しい文化の地をイメージしてくれます。幸いにしてこの史料館は、指導者に元校長の板倉敏郎氏という人材を得て学校と地域が協力し「栢生文化」の発行や「企画展」「カルチャーセミナー」等を開催している事はご存じの通りで各界から注目を浴びております。

後任には支援委員会全員の推薦で元王禅寺町会長の久保倉良三さんに就任して頂く事になりました。久保倉さんは御尊父二代に亘る地域の名望家です。私も今後、年齢に応じたご協力をしたいと思っておりますので併せてよろしくお願ひ申し上げます。

先輩の思いを  
 大切にしながら

栢生郷土史料館 新支援委員長  
 久保倉 良三

この度、栢生郷土史料館の建設及び閉館を主導された初代委員長の小島一也先生がご自身の健康上の理由にて委員長の職をご辞退されることになりましたが、この会は小島先生と板倉先生を中心に形を整えてきた史料館だけにとっても残念でしたが、その先生方より後任役を打診され、まさに晴天の霹靂、誠に驚き慌ててお断わりいたしました。

しかし、今度は総会の席において、多くの皆様方より指名される羽目となり、これではお断わりするのは失礼と思ひ覚悟を決めました。

とはいえ私は皆様方がご存じの通り何の力もない人間ですが清水の舞台より飛び降りたつもりで、あとは皆様方のご支援とご協力をお願ひ申し上げます。微力ながら務めさせていただきますのでよろしくお願ひ申し上げます。

## 川崎北部の修験を探るIV

### 「十三」という数字の謎 「十三塚」「十三菩提」

川崎市内に「十三」のつく地名は少なくとも7箇所あります。数ヶ所あるということとは何か互いに関連性を持つ共通の意味をもっているに違いありません。そんな疑問からこの問題を考えてみました。

#### 全国の「十三」地名

全国的に見て北は秋田県、南は鹿児島県まで分布し、主に関東以北に多く存在し、①名称は「十三塚」と呼ばれることが多く、他に「十三坊塚」「十三法壇」「十三仏塚」「十三塚原」「十三本塚」や「山伏塚」等の名称です。

②設置場所は主に村境や郡境や道筋で、③大きさは径1~2M、高さ1M弱の小型の円型の塚で一列に13個並ぶものが多いようです。④特徴は13個の真ん中の塚が大きいということ、内部からは何も出てこないが塚上や中から板碑が発見される場合もあります。⑤付随する伝説としては主に「武将を祀った」「山伏が生きながら入って死んだ」等があげられます。⑥いつ頃のものかというと室町時代末から江戸時代にかけてと考えられています。⑦何のためのものかという、名称に山伏や法壇(山伏が祈る場所)がある点や伝説を考えると修験者(山伏)の祭祀場(祈りを行なう場所)であったのではないかと考えられます。

川崎の「十三」地名右の表を見ますと、溝口の十三坊の1ヶ所を除いて、ともに多摩丘陵の中に位置しています。また、すべてが村境にあり、十三という共通の数字がつき、小塚が伴い、場所は大体台地状の場所と思われます。また江戸後期執筆の新編武蔵風土記稿には村の中の主な地名として「十三」地名が記述されており村人からはよく知られていたようです。

五力田の「十三塚」は？ 東京都教育委員会が昭和34・43年に行なった調査では、五力田と平尾との境界付近にあり13の小塚が一直線に並んで、中央の一基が若干大きく「十三塚」の典型的なスタイルで、遺物は発見されませんでした。ただ、隣接する「入定塚(にゅうじょうづか)」には9基の板碑が発見されています。



(五力田の十三塚)

「十三」の数字は何？ 修験者と関係の深い真言宗・天台宗で大切にしている「十三仏」が関係していたと思います。死者の裁判をする13の仏(正確には如来・阿彌陀如来など悟りを得た者、菩薩・地藏菩薩など悟りを得るために修業している者)は冥界の裁判官で死者の生前の行いを審理(取調べる)しています。

「十三塚」の意味修験者は死者の成仏を助け、生きる者の幸福を祈るため十三の塚を造り、そこを祭壇にして、現世、あるいは死者と冥界とのパイプ役を果たしながら修行していたものと思われます。(参考資料:「修験道辞典」「修験道の考古学的研究」「川崎地名辞典」) 【補足】十三菩提遺跡について(縄文時代遺跡の上に、中世に「十三菩提」が造られたため、その縄文遺跡を「十三菩提遺跡」と命名したのと思います。)

#### 川崎の十三地名

- ◎麻生区五力田→十三塚  
(東京都稲城市平尾2丁目との境界付近)
- ◎高津区溝口→十三坊  
(風土記稿によると二子村との村境付近か、周辺の村に多くの十三塚があると記述されている)
- ◎高津区久末→十三菩提  
(高津区明石橋の台地上の地域か)
- ◎高津区久末→十三本塚  
(県久末団地近く、伊勢原の久末天照社付近か)
- ◎高津区上作延→十三坊原  
(風土記稿によると、上作延村の西南の平地、隣の長尾村二神木あたり、にも同地名があるという)
- ◎高津区野川→十三本堂  
(十三菩薩・十三本塚ともいわれる、現川南台団地付近)
- ◎多摩区長尾→十三本原  
(風土記稿によると上作延村と地続きの原野をいう)  
(現在の作延から平・土橋に至る尾根道の周辺か)



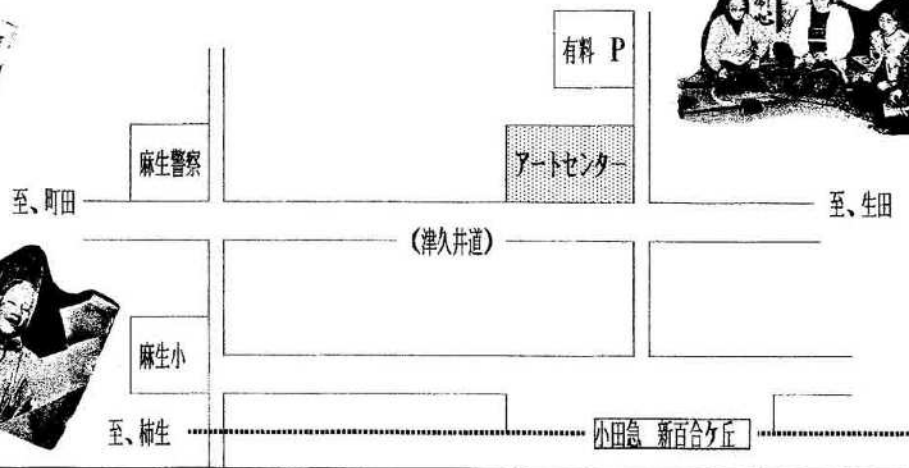
柿生郷土史料館

第36回 カルチャーセミナー

川崎市教育委員会共催

「うつし世の静寂(じま)に」 上映と宮前区土橋で育った  
著者、小倉美恵子氏の講演  
— 必見！何度見ても新たな感動が！ —

- ◎講師 小倉 美恵子 氏 (ささらプロダクション)
- ◎日時 7月30日(月) 午後6時開演 (受付：午後5時30分より)
- ◎会場 新百合ヶ丘「アートセンター」映像館
- ◎入場料(会費別、他) 大人300円 こども100円(中学生以下)
- ◎内容
  - ・人々はなぜ「講」を守り「伝統芸能」を復活させたのか
  - ・祖先が培ってきた「祈り」「絆(きずな)」の意味は何
  - ・現代人が忘れてしまった大切なものとは……



≡≡≡≡≡ 柿生郷土史料館開館のご案内 ≡≡≡≡≡

開館時間

開館：午前10時  
閉館：午後 3時

開館日

7月 8日(日)	8月 4日(土)
7月15日(日)	8月11日(土)
7月22日(日)	8月18日(土)
※7月 1日(日)は館内整理のため休館といたします。	8月25日(土)
※7月30日(月)18:00~アートセンター映像館(新百合ヶ丘)カルチャーセミナー「うつし世の静寂に」	

開・偶数月は土曜日  
館・奇数月は日曜日

≡≡≡≡≡ 柿生郷土史料館の7~11月の催物 ≡≡≡≡≡

(特別企画展)

※問い合わせ 988-0004 (柿生中学校)

第6回 特別企画展

「写真でたどる

郷土百年の歩み展 I」(期間：4/21~ 7/22)

「 ” II」(期間：8/18~11/25)